

東アジア共同体の展望

吉田 春樹

この最終セッションに与えられた課題は、「東アジア共同体の可能性」である。本論に入る前に、この東アジア社会における共同体の「必要性」について述べておきたい。

私は、共同体の前提となる東アジアは、ASEAN+3（日中韓）+台湾、香港と考えている。この地域は、世界の工場と呼ばれている。その総人口は約20億人で、すでに成熟段階にある日本を別にすれば、今、発展途上にある。世界には、ヨーロッパのEU、南北アメリカ大陸のNAFTAとメルコスル、そしてこの東アジアと、大きく分けて3つの経済圏がある。そのうち東アジアのみが、組織を持たない実質的経済圏である。

ごく概数で、世界の先進国人口は10億人、発展途上国は40億人、後発途上国は15億人である。先進国はすでに資源を大量に消費しているが、そこに発展途上国が加わると、原油価格の高騰にみられるように、資源の需給関係は非常に厳しくなる。しかし、そのような状況の中で、人類としては、いかに秩序ある自由主義経済、市場原理を維持していくかが、これからの大きな課題となる。例えば、省エネ技術の共同開発が一つの例になると思うが、この発展途上にある東アジアに組織体としての共同体が誕生することは、東アジア自体の秩序と発展に、ひいては世界の平和と繁栄に貢献すると思う。私は、この東アジアに、どうしても共同体を設立しなければならないと考えている。

そこで、課題は2つある。第1に、どういう共同体であれば設立が可能かであり、第2に、参加各国の設立へ向けた強い意志と、政治の強力なリーダーシップが必要であるということである。

第1の課題については、それは、経済共同体であるべきと考える。この東アジアに求められるのは、経済的な協力関係であり、その秩序であると考えている。ポイントは2点ある。

その第1点は、現在数多くのFTAが締結されつつあるが、これを、2015年までに域内で1つの関税同盟にまとめることを提言する。EUも、その出発点は関税同盟であった。第2点は、2025年までに単一通貨の誕生を目指したい。この東アジア単一通貨は、やがて世界の基軸通貨の1つとなるものである。この単一通貨には、準備の整った国から順次参加すればいい。この2つが、共同体を推進するエンジンの役割を果たすと考える。もちろん、産業技術や農業技術の開発、環境問題への取り組みを共同体として協力して行うことは当然である。

第2の課題については、東アジアは、ヨーロッパと異なり、その歴史や文化が多様であるといわれる。はたして、そうであろうか。この東アジアは、総じてモンスーン地帯に属し、稲作文化を共有している。人びとは、勤勉で、モノづくりを得意としている。たしかに経済の発展段階には国により大きな差があるが、この点については、できる国ができるところから手をつければいい。必要ならば、互いに協力しよう。アセアン・ウェイでいいのである。肝心なことは、人びとが共同体を実現することに強い意志を持ち続け、政治家が、強力なリーダーシップを発揮することである。

最後に、共同体の大きな前提となる和解に一言触れなければならない。

第2次世界大戦までは、帝国主義による侵略自体は国際犯罪とはされていなかった。しかし、そのことによって、日本は、日本の軍隊がこの東アジアで人びとに大きな危害を加え、苦痛を与えたことについては、強く反省しなければならない。同時に、戦後の日本が、戦前とは全く違う平和国家に生まれ変わっていることについては、東アジアの人びとに、ぜひ理解を求めたい。